



中学年
書くこと

友達に伝える報告書を作ろう

「関連單元」本で調べて、
ほうこくする文章を書こう
(三年下)

横浜雙葉小学校教諭

遠藤綾子 えんどう あやこ

はじめに

「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」など、三年生の説明文で学んだことは多い。例えば、「初め・中・終わり」の文章構成や、「中」の段落の順序性、挿絵の役割などである。一年間のまとめとして、それらを意識させた学習に取り組みたいと考えた。司書教諭の協力も得て、「そだててあそぼう」のシリーズ（農文協）から、一人ずつ異なった本を用意し、配布した。その本を各自読み、報告書にまとめることにした。クラスの友達に伝えたいことは何か。本の中の多くの情報を相手に分かりやすく伝えるためには、自分の思考を整理しなければならぬ。そこで、読み取ったことを一度メモに整理するというステップを踏ませた。細かいステップだが、迷いを減らし、書くことへの自信につながると考えた。

指導計画（全十二時間）

一時	・ 報告書の形を知る ・ モデル文の提示。
二時	・ 調べる野菜や果物を決める ・ 「初め」の段落を書く。
三時	・ メモの必要性を感じ、メモの取り方を考える ・ よいメモの条件を知る。
四〜六時	・ 本から読み取ったことをメモに取る ・ メモを分類、選択する。
七・八時	・ 順序を考え、「中」の段落を書く ・ 挿絵の選択や配置を考える。 ・ 「終わり」の段落を書く。
九・十時	・ 清書をする ・ ミニクイズ、表紙を作る

○指導の実際

二時

報告書の「はじめに」の部分には、①読み手への問いかけ、②調べたこと、③調べた理由、④調べた本を書くよう指導した。また、読み手の興味を引くような書きだしをする例として、「すがたをかえる大豆」を思い出させた。その際、マンガラート(※1)を使って、

白 (外中)	うひまるこちゃん (なぐさるん)	セウと なみだかおる
オンスーフ	玉ねぎ	さかたんかい ていり
シェリシェリ	丸い	野子さい

白 (外中)	ちびまるこちゃん (ななさりん)	セカると なみだかぶお
オニオンスープ	玉ねぎ	さきかどんかぶ ていお
シェリシェリ	丸い	里予さい

▲※1 マンダラートを使って、「玉ねぎ」についてのイメージを広げた児童作例。
中央に調べるものを置き、周りにイメージすること（大きさ、形、色、産地、味など）を書いていく。全部埋まらなくてもよいことにした。

ことを挙げ、書きだしのヒントにした。

三時

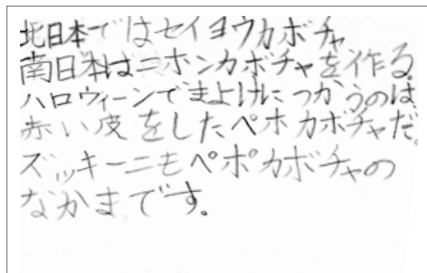
本で読んだことを丸写しするのは報告書にはならない。そこで、読み取った内容を付箋紙にメモさせることにした。初めに、クラスで同じ題材を使い、メモの取り方やよいメモの条件を考える、「メモ指導」の時間を作った。①一枚一項目、②見出しを付ける、③箇条書きをする、④矢印や◎など記号を使う、⑤色分けをする。これらの条件がクラスで共有された。メモの取り方には個人差が見られたが、細かくステップを踏むことで、無理なく全員が完成させることができた。(※2・3)

七・八時

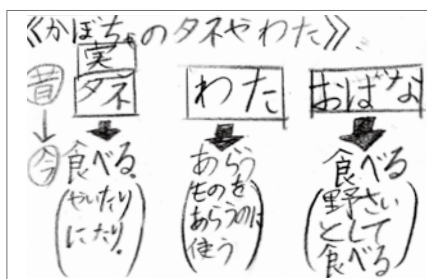
前時までに、取りためたメモの中から知らせたいものを選んでおき、本時では選んだメモ（三種類）の順序を考えさせた。「すがたをかえる大豆」で「中」の構成のしかたに筆者の意図があるのを学んだことを踏まえ、自分の選んだメモもこだわりをもった構成にするよう促した。①読み手に分かりやすい順、②自分が知らせたい順、③野菜の生長順、④歴史の古い順など、各自が「中」の構成を工夫した。各段落は、五文から六文程度でまとめさせた。また、挿絵が読み手の助けになることも学んだので、有効な挿絵とその配置についても考えさせた。

○おわりに

初めて書く報告書だったが、今までの学習で身につけた力を活用しながら書くことができた（※4）。最後の交流会では友達の商品から学ぶことも多く、充実した時間となった。特に、普段書くことに抵抗を感じていた子どもたちが「楽しかった」「書き方が分かった」などと満足し、高く自己評価していたのが印象的だった。四年生では自分でテーマを探す力、多数の資料からまとめていく力、互いに推敲し合う力を養うことが新たな課題になると考える。



▲※2 メモの取り方を指導する前のメモ



▲※3 指導した後のメモ



▲※4 完成した報告書